

経営のヒント67 座右の書

「座右の書」はありますか？

みなさんは、「座右の書」はありますか？

私は仕事柄、毎週4~5冊は本を読んでおりますが、本当の「座右の書」となる著書があるのだろうか、ふと考えてみました。

「歴史小説」「思想哲学の本」「経営論」「著名人の経営実践論」「経営実務書」いろいろありますが、本当に自分が判断の困った時に紐解く著書は、何なのか？私の心の支えとなっている考え方のベースは、どこから来ているのか？

それは、やはり竹内上人の講演が心の奥底にあると感じております。

今回、あの竹内日祥上人が著書を出版しました。

（企業再構築の仕掛け バリュー・マネジメント 竹内日祥 現代書林 1500円税）

すぐに取り寄せ、すぐに読みましたが、講演内容で言っていることが一冊にまとめてあります。

この内容は3年分の講演での内容のポイントがギッシリと詰まっております。年間26万円の講演と時間が3年分とするととってもお得ですね。

すぐに、より多くの経営者や幹部の知り合いに薦めようと10冊ほどまとめてオーダーして、アマゾンより自宅に届きましたが・・・。

確かに内容は素晴らしい。理解しやすいように書いてくれている。

しかし、竹内上人の講演を共感的に聴いたことがない人達にとって、この本の意図していることが本当に理解・共感するのだろうか？と不安になりました。

私が「この本、素晴らしいよ」とお勧めしてみても、本当に意味があるのだろうか？

このお盆休み中は考えてしまいました。

どうすれば、この本の本当に言いたいこと、本質を伝えるようにするには？

再度、この本を読み直しています。

するとヒントが見えました。

私は読んでいると、本の内容と竹内上人の講演が重なって臉の裏に映像として浮かんでくるのです。

ただ、知識として読んでいてもまったく意味がない。自分の経験・体験に基づき、手に取るようにイメージとして、共感理解出来なければ、猫に小判、なんだと気づいた次第です。

確かに毎週何冊も読んでいるが、記憶に残る著書はほとんどないのが現状です。

「座右の書」

それは自分の実体験がなければ、ただの知識が書いているだけ。

智慧にするには、強烈なイメージとして沸いてこなければ、現実に活用できないものなんだ。

経営のヒント

「座右の書」を持つには、経験・体験が必要不可欠。

「知識」を「智慧」にするには、手に取るようにイメージ出来るかどうか？が鍵なんだ。

イメージするには「物語り」を語ることが一番の早道である。